

2007年12月11日
株式会社日立製作所
執行役社長 古川一夫
(コード番号:6501)
(上場取引所:東・大・名・福・札)

クラリオン株式会社
取締役社長 泉龍彦
(コード番号:6796)
(上場取引所:東・大)

車載情報システム事業強化に向け、子会社を再編・強化 開発機能をクラリオングループに集約し、開発効率を向上

株式会社日立製作所(以下、日立)とクラリオン株式会社(以下、クラリオン)は、CIS(車載情報システム/Car Information Systems)関連製品における開発効率の向上を目的として、2008年3月31日付で両社合併の開発受託会社である株式会社エイチ・シー・エックス(以下、HCX)を解散し、その開発機能をクラリオン及びクラリオンの100%子会社である株式会社ザナビィ・インフォマティクス(以下、ザナビィ)に移管することを決定しました。

自動車の中と外とをつなぐ情報のネットワーク化の進展に伴い、今後、ますます市場領域が拡大すると見込まれるCIS事業の強化に向けて、日立は、クラリオンを中心とする開発体制を構築し、開発効率の向上を図ります。

日立は、CIS事業を含むオートモティブシステム事業を日立グループの中核事業の一つと位置付けて、強化を図ってきました。そのなかで、日立、クラリオン及びザナビィの3社は、2000年12月に、カーナビゲーションの共通プラットフォームをはじめとしたCIS関連製品の開発を目的に、HCXを設立^(*)しました。

また、2005年に、日立とクラリオンは、包括的業務提携を結び、2006年には日立がクラリオンを連結子会社化するなど、CIS事業強化のために連携を強めてきました。その後、2007年に日立の100%子会社であったザナビィをクラリオンの100%子会社とし、クラリオン・ザナビィ両社の生産・購買機能をクラリオンに統合するなど、日立グループにおけるCIS事業の強化に向けて、運営体制の集約化を推進してきました。

今回、HCXの開発機能をクラリオングループに集約することにより、開発効率をさらに高め、自動車の中と外とをつなぐ情報のネットワーク化の進展に伴い、今後、ますます市場領域が拡大

すると見込まれる CIS 関連製品の競争力向上を図ります。

日立とクラリオンは、製品の基盤となる基本ソフトウェアや先行技術開発、さらに、資材調達から生産、販売、サービスなど全般における効率化を図り、CIS 事業を拡大していきます。

(*) 2005 年に、ザナビィがもつ HCX 株式を日立に譲渡し、HCX は日立とクラリオンの合併会社となっています。

1. 株式会社エイチ・シー・エックスの概要

- (1)本店所在地 : 東京都品川区東品川四丁目 12 番 6 号
- (2)代表者氏名 : 代表取締役社長 皆川昭一
- (3)事業内容 : 自動車に搭載する通信機器・装置・システムならびに
その部品の開発
- (4)設立年月日 : 2000 年 12 月 21 日
- (5)資本金 : 100 百万円(2007 年 9 月 30 日現在)
- (6)発行済株式数 : 2000 株
- (7)決算期 : 3 月
- (8)従業員数 : 47人(2007年11月30日現在)
- (9)大株主及び持株比率 : 株式会社日立製作所 66%、クラリオン株式会社 34%

2. 解散の日程

2008 年 3 月 31 日に HCX を解散し、開発機能をクラリオン及びザナビィに集約します。

3. 今後の見通し

日立・クラリオンの連結業績に与える影響は軽微であり、業績予想に変更はありません。

以上